

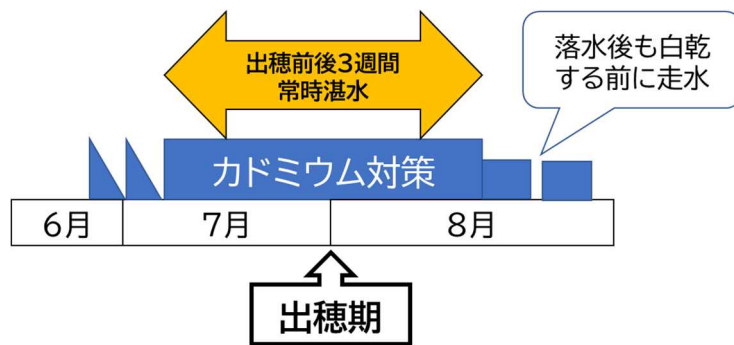
### 高温・少雨に備えましょう！

梅雨が明け、高温が続くと予想されています。高温に加えて、少雨が続くと、白未熟粒や胴割粒の発生等が懸念されます。被害を最小限に抑えるため、下記の栽培管理を実施しましょう。

## < 稲栽培管理の要点 >

### 1. 水管理の徹底！

出穂期以降は、稲が最も水を必要とする時期です。この時期に水不足になると白未熟粒や胴割粒の発生が多くなります。  
出穂前後各3週間は、品質向上とカドミウム吸収抑制対策のため湛水管理を行いましょう。



※5月上中旬植での水管理のイメージ(コシヒカリ)

### “ 高温干ばつ時には特に注意 ”

- ・排水口はしっかり閉じられ、高さの調節はできているか。
- ・排水側の土手のネズミ等による穴から漏水していないか。

◎用水の有効利用：かけ流し管理は厳禁。用排水の反復利用を行う。

水口側からの観察だけでなく、排水側からも入水状況を点検しましょう。

## 注意1 強風が続く時の水不足厳禁

昨年は晩生品種等で、出穂・開花期頃に強風が続いて水不足のほ場では不稔等の障害が出ました。

## 注意2 収穫前の早期落水防止

高温の年には、品質、収量への影響も大きくなります。こまめな水管理に努め、収穫作業に支障のない範囲で、出来る限り遅くまで入水しましょう。

**できる限り収穫直前まで入水を！**

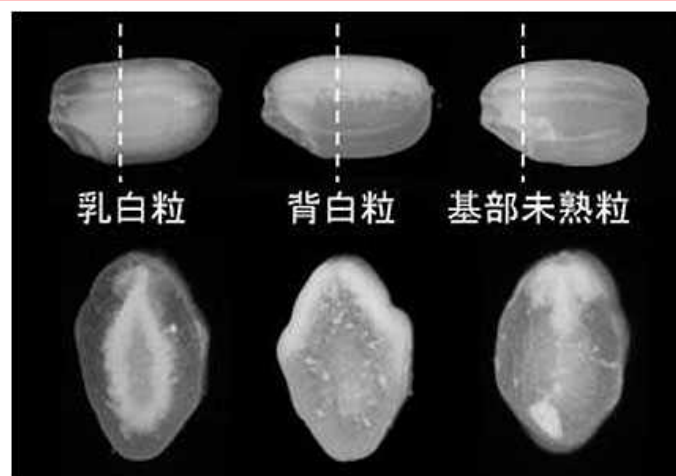
## 2. 生育後期の稲体の栄養維持！

高温の年には、登熟後期に栄養不足の状態になりやすいため、背白粒、基部未熟粒等の白未熟粒が多発します。稲体の栄養状態を改善して外観品質を向上させるため、出穂期頃に窒素追肥（1～2kgN/10a）の最終判断をしてください。

全量基肥（一発肥料）栽培でも、出穂期～穂揃期にかけて、葉色が薄い（葉色板で4.0(SPAD値36)以下）場合、追肥（1～2kgN/10a）を検討しましょう。施肥量が基準より少なくなっているほ場は要注意です。

一方で、倒伏やいもち病を助長しますので、これらのリスクが高いほ場では追肥を避けましょう。また、多量に施用すると、タンパク含量が高まり、食味の低下につながりますので注意してください。

※「環境こだわり栽培」では、化成肥料の使用上限量を順守するため、有機質100%肥料を活用してください。



白未熟粒の外観と断面図  
(でんぷんの蓄積が悪いところが白く見える)

### 3. カメムシ防除の徹底

高温の年は、斑点米カメムシ類の発生に好適な条件となり、斑点米の被害が多くなります。既に本年は7/17に滋賀県病害虫防除所から注意報が発表されています。

薬剤による防除時期が、出穂7～10日後頃の防除適期より早かったほ場や、畦畔草刈りが不十分なほ場では、斑点米の被害が出やすくなります。薬剤散布2週間後をめぐり、ほ場をよく観察し、斑点米カメムシ類が多い場合は追加防除を検討しましょう。



大型カメムシ類による斑点米

### 4. 刈り遅れ防止！

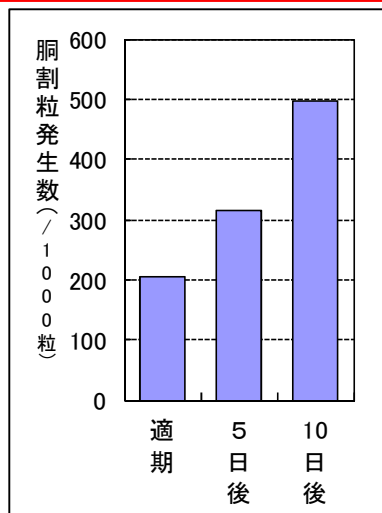
◎登熟期間が高温に推移すると、成熟までの日数は短縮します。籾の色等をよく観察し、収穫適期に刈り取りができるよう計画的に作業を行いましょう。

収穫適期は籾黄化率85～90%（籾黄化率50%は収穫約7日前）。

刈り遅れによる外観品質の低下 = 食味の低下



胴割粒



刈り遅れと胴割粒の関係

## 5. 海外飛来性害虫(トビイロウンカ等)に注意!

今後も気温が高く、海外飛来性害虫（トビイロウンカ、セジロウンカ、コブノメイガ）の増殖に好適な条件が見込まれることから、7月23日に滋賀県病害虫防除所から防除情報が発表されました。中生品種・晩生品種については、ほ場をよく観察するとともに、今後発表される情報に注意いただき、必要に応じて防除を検討しましょう。



トビイロウンカによる坪枯れ症状



株元に群がるトビイロウンカ

## 6. 熱中症に注意しましょう!

連日30℃を超える猛暑が続いています。大阪管区气象台発表の3か月予報（7～9月）によると、気温は平年より高くなることが予想されていますので、熱中症に十分注意しましょう。

- 熱中症警戒アラートが発表されている場合は、より軽い作業へと作業内容の見直しを検討しましょう。
- 暑さが厳しい場合は、作業する時間を朝夕にずらしたり、休憩や給水の回数を増やしましょう。
- 以下のような症状があれば、熱中症の疑いがありますので、作業を中断して応急処置をしましょう。

□手足がしびれる、冷たい

□汗をかかない、体が熱い

□めまい、吐き気がする

□頭痛がする、体がだるい

### ＜応急処置＞

- 涼しい場所へ避難し、服をゆるめ、冷たいタオルや保冷剤等で体を冷やしましょう。
- 水分、塩分を補給しましょう。
- **自力で水を飲めない、応答がおかしい場合は救急車を呼びましょう。**